



Profile

宮和海運株式会社

宮和海運では、海運業の他、港湾運送業、ホテル業を行う。ホテル業で地元の素材を使ったランチメニューを提供し、宿泊客以外でも利用できる。敷地内に高速バスの停留所も設けている。また、子ども食堂に食材を寄付しており、今後も続けていく予定だ。従業員も低価格で食事や浴場の利用ができる。



阿南から海を通じて 持続可能な社会を目指す

「海運とは、わかりやすく言えば海の輸送屋さんです」と宮和海運代表取締役四宮仁さん。現在は、日本国内を輸送する内航船を七隻自社運行し、北海道から沖縄まで主に木材を中心に運んでいる。1年間に運ぶ量は、丸太12万立方メートル、木材チップ7万トンにも及び、その多くがバイオマス発電所の燃料となる。

「海上輸送は、地球環境に優しい輸送方法です」と四宮さんが言うように、海上輸送は今、大きな注目を集めていて、国も『モーダルシフト』を推奨している。『モーダルシフト』とは、トラックによる貨物輸送を大量輸送が可能な海上輸送や鉄道に変換していくことで、二酸化炭素排出量の削減や長距離トラック運転手の不足解消にもつながるとされている。人手不足は海運業も同様で、宮和海運でも船員の最高齢は、73歳。

「海運業も法整備が進み、今後10年で大きく変わると思いますよ」と四宮さんは言う。一企業では解決できない問題だが、一般の方に船を見てもらい、海運業のPRなども必要ではと考えている。

また、「今後バイオマス燃料の材料となる丸太やチップの輸送をさらに増やし、持続可能な社会の構築に更に貢献したい」と四宮社長は未来を見据えている。